



校長室だより

令和8年度

5月29日

NO. 8

見てくれる人のため、ワクワクドキドキを乗り越えて…

「たいていの人は『できれば不安はなくしたい』と考えるかもしれませんが、不安は人が生きていく上で必要な機能、とも言えます。不安があるからこそ、人は備え、工夫し、努力できる一面があります。」

『科学がつきとめたい『運のいい人』』
(サンマーク出版) 中野信子著



気持ちよい5月の風の中行われた学区大運動会。子供たち、学区の方々の活躍が輝きました。

国旗掲揚の様子を、子ツバメも親ツバメも一緒になって見えていました。二十三日の学区運動会には、保護者・来賓だけではなく、学区の方々の姿もありました。運動会の運営で中心となって携わってくださった体育振興会の皆様、綱引きなど盛り上げてくださった消防団の方々、片付けを手伝ってくださった皆さんなど、保護者や多くの学区の方々との協働作業で作られた温かい運動会であったことを実感しました。

思えば運動会は、子供の時も、担任だった時もワクワクした気持ちとともに、何かしら心配を抱えていたことを記憶しています。子供当時は、組体操ちゃんとできるかとか、帽子取り負けたくないとか、担任になっても、リレーでクラスが勝てるかなど、ドキドキワクワクは尽きませんでした。けれど、どれもやらずには済まないもので、やってみて勝てたりやり遂げたりできればうれしいことも分かっているので、本番は気合が入ったのを覚えていきます。当然、うまくいかなかったこともあるし、成功できたこともありましたが、その心配した気持ちを抱え、それに向かって頑張る体験は、子供にとっても、困難を乗り越える貴重な経験になると言えます。

小規模校では、行事で子供一人一人が活躍できる割合も大きくなります。大きな声を出し気合を入れる子、係の仕事を黙々と行う子、前の子を追い必死に走る子、まるでアイドルのように笑顔で踊る子、歯を食いしばり綱を引く子、きつと様々な心配の種を抱え、秦梨つ子は活躍しました。ある本に、感動は「だれかのため、一生懸命、純粹な気持ち」で生まれるとありますが、運動会には、そんな子供の姿があったように感じました。

- ・運動会では、保護者の方をはじめ、多くの学区の方にご参加いただきありがとうございました。
- ・本年度は保護者にも案内をさせていただいて、全校田植えを行いました。本年度より始まった「コミュニティ・スクール」もあり、「ふるさと学習」については、より皆様に知ってもらって支援いただけるように、多くの方が参加できるように考えております。6月11日には里山レスキューを計画しています。一緒に里山整備活動を行っていただける方はぜひご参加ください。